

東京都の様式とは条例に基づく様式が異なります
足立区の報告書様式を HP からダウンロード
(様式が変わっている可能性があります)

建築工事施工計

建築基準法第12条第5項の規定に基づき、下記のとおり
この報告書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。

〇〇〇〇年〇〇月〇〇日

(提出先)
足立区長

工事監理者及び工事施工者は、本報告書の記載内容と確認済証及び設計図書が整合しているか十分確認して記入してください

提出先を確認

工事監理者 住所 東京都足立区西新井〇-〇-〇〇 電話 03(〇〇〇〇)〇〇〇〇
会社名 株式会社〇〇設計事務所(一)級建築士事務所(東京都)登録第(〇〇〇〇)号
氏名 建築士 亨 (一)級 建築士(大臣)登録第(〇〇〇〇〇〇)号

工事施工者 住所 東京都足立区綾瀬〇-〇-〇〇 □□□ビル 電話 03(〇〇〇〇)〇〇〇〇
会社名 株式会社〇〇建設 足立支店 建設業の許可 大臣・東京都(知事)特-3第(〇〇〇〇)号
氏名 取締役足立支店長 建物 建て太郎
(法人にあっては、その事務所の所在地、名称及び代表者の氏名)

品質窓口責任者氏名

B方式(本社等の支援体制が組み込まれた品質管理)の場合

確認申請書又は工事監理者届、施工者届と一言一句合
わせる

工 事 現 場	名 称	ビル新築工〇〇 〇〇事		A 工区 棟	工事の種類	新築・増築・改築	
(1)	所在地	足立区 中央本町〇丁目2-1、2-2、2-3		所在地は地名地番を記載			
(2)	構造設計者	氏名	構造 丈夫	所属会社	株式会社〇〇〇 構造設計事務所	電話 03(〇〇〇〇)〇〇〇〇	
(3)	現場代理人(所長)	氏名	安全 工児	現場事務所	足立区中央本町〇-〇-〇 ※現場事務所の住所	電話 03(〇〇〇〇)〇〇〇〇	
(4)	階数	地上 4階・地下 階	塔屋 階	(5) 建築面積	〇〇〇.〇〇m ²	(6) 延べ面積	〇〇〇.〇〇m ²
(7)	構造	木造・S造・RC造・WRC造・SRC造・混構造(造+ 造)・その他()					
(8)	高さ	軒高 〇〇.〇〇m	最高 〇〇.〇〇m	(9) 確認済証交付機関	株式会社〇〇〇〇〇〇〇〇		
(10)	確認・計画通知、年月日及び番号		〇〇〇〇年 〇月〇〇日 第〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇号				
(11)	計画変更年月日及び番号		年 月 日 第 号 年 月 日 第 号				
(12)	構造計算の方法		(X) ルート(3)、(Y) ルート(3)、その他()				
(13) 構造 (階ごと)	RC造	1階から 4階まで		(14) 使用 部位	PCa・HPCa		
	SRC造	階から 階まで			PC		
	S造	階から 階まで			CFT		
		階から 階まで					
(15) 認定 材料	コンクリート	高強度コンクリート MCON-〇〇〇〇				※ 受 付 欄	
	鋼 材 等						
	免震・制振部材						
	そ の 他	高強度せん断補強筋 〇〇〇〇-1275					

(注意) 1 ※印のある欄は、記入しないでください。
2 代表となる工事監理者及び工事施工者は、本報告書の記載内容と確認済証及び設計図書等が整合しているか十分確認して記入してください。

(日本産業規格A列4番)

鉄筋工事及びコンクリート施工計画報告書													
コンクリート使用材料及び施工													
基礎の種類		☐ 直接基礎 { ☐ ベタ基礎 ☐ 布基礎 ☐ 独立基礎 } ☒ くい基礎 { ☒ 場所打ち鉄筋コンクリート杭 ☐ 既製杭 (PHC杭、SC杭、鋼管杭、その他 ()) }											
コンクリート確認項目	施工	使用工法	在来		基準		■JASS5(2018年版)□その他()						
		使用部位	杭	基礎	1階～2階		2階～3階		4階～R階		階～階		
		設計基準強度	27	39	39		36		33				
		打設方法	トレミー管打ち	ポンプ打ち	ポンプ打ち		ポンプ打ち		3階立上り4階床を示す				
		使用工法	2階立上り3階床を示す					軽量()種		モルタル		グラウト	
		使用部位	階～階	階～階	階～階		階～階		階～階				
		設計基準強度											
		打設方法											
	試験・検査計画	品質管理責任者 氏名 ○○建設株式会社 本田 三郎						工事監理者 又は係員氏名		常 駐 非 常 駐			
		検査担当者(工事施工者) 氏名 元方 安子											
検査項目		打込前	■試験 ■散水 ■配筋 ■かぶり厚さ					建築 士朗		常・非			
		打込中	■テストピース採取 ■打込速度・順序 ■締固め					建築 士朗		常・非			
		打込後	■養生方法 ■養生温度 ■打込欠陥					建築 士朗		常・非			
エア・スランプ試験等の代行業者名				採取試験会社名: ○X検査(株) 採取登録番号: 採高強-○○-(XX)-△△号									
供試体の養生場所・管理者				場所: (公財)○○○○○センター○試験室 品川区東大井○-○-○ 養生方法: 標準養生 管理者氏名: 鉄筋コン太郎									
構造体コンクリート試験機関名				36N/mm ² 以下の場合 (株)○○○○○○○ 36N/mm ² 超の場合 ○○○○○○(株) 都登録 第 試A-○○-(□)-△△号 都登録 第 試B-○○-(□)-△△号									
鉄筋使用材料及び施工													
使用鉄筋	種 別	SD295		SD345		SD390		検査会社、養生場所、養生方法、管理者氏名					
	使用径	D10～D16		D19～D25		D29～D32		D ～D		D ～			
鉄筋確認項目	施工	継 手 種 類	圧接継手		機械式継手		溶接継手		重ね継手(その他)				
		使 用 箇 所	地中梁、柱、梁 主筋						壁、スラブ等				
		継手工法名(溶接材料)											
		継手施工会社(優良圧接業者)	(株)○○○○(優)		SA								
			A 級	その他									
		技 量 確 認 ・ 施 工 前 試 験			無								
	試験・検査計画	冷間直角カッターの使用			有								
		外 観 検 査(%)			100				100				
		引張試験 (箇所/ロット)			5/1								
		超音波探傷・測定検査 (箇所/ロット又は%)			30 箇所/ロット								
引張試験併用				有									
引 張 試 験 機 関 名		検査機関の名称: ○○○○○○(株) 都登録 第 試 B-○○-(□)-△△号											
非 破 壊 検 査 機 関 名		検査機関の名称: ○○○○○○(株) 都登録 第 筋-○○-(○)-○ 号 検査者 超音波探治朗 資格 3種-○○○○											
外 観 検 査 実 施 者		工事監理者・工事施工者/検査機関 都登録 第 筋-○○-(○)-○号 検査者 超音波探治朗 資格 3種-○○○○											
鉄筋コンクリート工事 重点管理項目		・夏期は、コンクリート温度の上昇に備えて、JASS5 (2018) に記載された内容で対策する。 ・スラブ下、梁下のかぶり厚は JASS5 より、強度、剛性、安定性、耐火性のある鋼製またはコンクリート製のスペーサーを使用する。 ・ドーナツ型スペーサーは配筋指針より、原則横向きとしない。											

鉄筋コンクリート工事を行うにあたり、品質確保のため、重点的に管理する項目について、工事施工者（元請け）、工事監理者それぞれの立場から記入する。

[illegible]

- ・地上3階建て、かつ延べ面積500㎡を超える建物(木造は除く)のみ。
- ・捨てコン、スロープ、パレット、防水押えコンは記載不要

レディーミクストコンクリート工場名※1		〇〇(株)△△工場			
JIS 認証番号	GB〇〇〇〇〇〇	認証品目	普通、高強度	運搬時間	20分
コンクリートの設計及び仕様による条件 ☐ 添付のコンクリート配合計画書によるため記載を省略 ☒ 下記の内容による					
番号	打込箇所	※2 コンクリートの種類 1	設計基準強度(N/mm ²)	強度管理材齢(日)	セメントの種類
枝番	打設期間	※3 コンクリートの種類 2	品質基準強度(N/mm ²)	養生方法	スランブ スランブフロー(cm)
	適用期間		呼び強度(調合管理強度)	判定基準強度(N/mm ²)※4	コンクリート温度(℃)※5
1	杭	普通	27	28	N
	R.〇〇.〇〇.〇〇 ~R.〇〇.〇〇.〇〇	杭は適用期間内での打設期間		標準	18
	R.〇〇.〇〇.〇〇 ~R.〇〇.〇〇.〇〇	水中	30	30 (27+3)	-
2	耐圧盤	コンクリート打設毎の箇所	39	28	N
	R.〇〇.〇〇.〇〇 ~R.〇〇.〇〇.〇〇	高強度	39	標準	21
	R.〇〇.〇〇.〇〇 ~R.〇〇.〇〇.〇〇	コンクリートの打設予定日	44	44 (39+5)	35℃以下
3	地中梁	普通	39	28	N
	R.〇〇.〇〇.〇〇 ~R.〇〇.〇〇.〇〇		39	標準	21
	R.〇〇.〇〇.〇〇 ~R.〇〇.〇〇.〇〇	高強度	44	44 (39+5)	35℃以下
4	1階床	普通	39	28	N
	R.〇〇.〇〇.〇〇 ~R.〇〇.〇〇.〇〇		39	標準	21
	R.〇〇.〇〇.〇〇 ~R.〇〇.〇〇.〇〇	高強度	44	44 (39+5)	35℃以下
5	1階立上り～ 2階床	コンクリートの打設毎の箇所・範囲		28	N
	R.〇〇.〇〇.〇〇 ~R.〇〇.〇〇.〇〇		39	標準	21
	R.〇〇.〇〇.〇〇 ~R.〇〇.〇〇.〇〇	高強度	46	46 (39+7)	35℃以下
6	2階立上り～ 3階床	普通	36	28	N
	R.〇〇.〇〇.〇〇 ~R.〇〇.〇〇.〇〇	通常	36	標準	21
	R.〇〇.〇〇.〇〇 ~R.〇〇.〇〇.〇〇	暑中	42	(36+6)	35℃以下
7	3階立上り～ 4階床	普通	36	28	N
	R.〇〇.〇〇.〇〇 ~R.〇〇.〇〇.〇〇		36	標準	21
	R.〇〇.〇〇.〇〇 ~R.〇〇.〇〇.〇〇	通常	39	39 (36+3)	-
8	4階立上り～ R階床	普通	33	28	N
	R.〇〇.〇〇.〇〇 ~R.〇〇.〇〇.〇〇		33	標準	21
	R.〇〇.〇〇.〇〇 ~R.〇〇.〇〇.〇〇	通常	39	36 (33+6)	-

(注意) 1 レディーミクストコンクリート工場が複数ある場合は、工場ごとに作成する。
 2 コンクリートの使用骨材による種類を記入する。
 3 コンクリートの使用材料・施工条件・要求性能などによる種類(通常、寒中、暑中、軽量、流動化、高流動、高強度、マスコン、プレストレスト、水中、水密)を記入する。
 4 高強度コンクリートの場合は、Fc+mSnのそれぞれの項の値を()内に別途記入する。
 5 高強度・マスコン・暑中・寒中コンクリートについては、必ず記入する。

